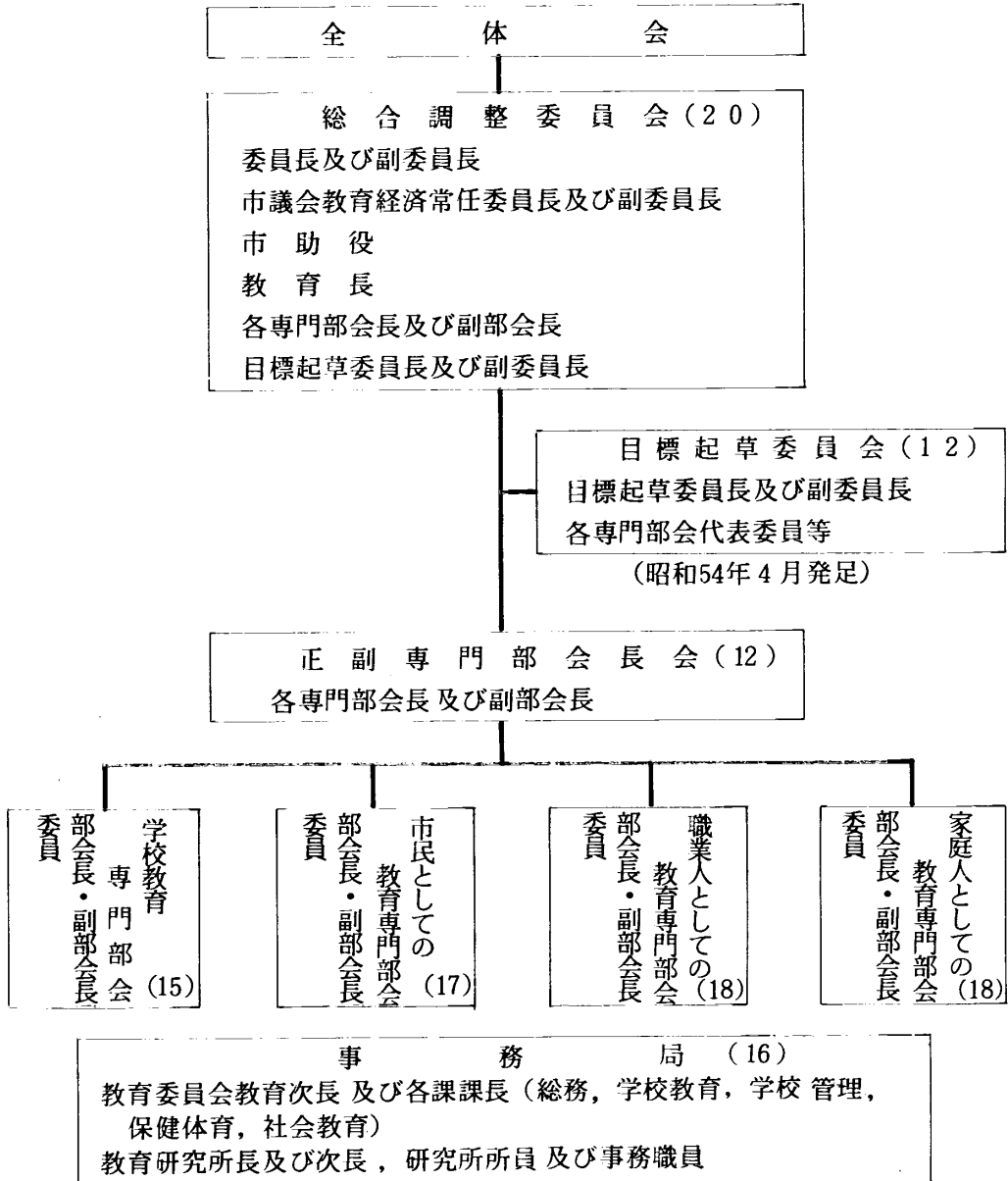


### 3 教育目標設定委員会の組織

足利市教育目標設定委員会設置要綱（資料 342 ページ参照）に基づき、四専門部会をはじめ、次のような組織をつくり、目標設定が進められた。

(1) 組織図 (昭和55年度)



( )内は人数を示す。

### Ⅲ 足利市の教育目標設定の基本構想

#### (2) 各委員会設置の意図及びその機能

##### ① 全体会

目標設定委員会委員全員をもって構成し、目標設定作業過程においてあるまじまりのできた段階で、研究の進ちよく状況や研究成果の確認、さらに、次の段階における研究方向等について、共通理解を深める。

##### ② 総合調整委員会

各専門部会や目標起草委員会の目標設定作業の進ちよく状況の確認と相互調整を行い、目標設定が円滑に運ばれるようにするとともに、次の段階の方向を決定する。

また、市民参加による目標設定の方法、年度末の決算や次年度の予算、目標設定の年間作業計画等について検討し決定する。

##### ③ 正副専門部会長会

目標設定作業過程において、各専門部会間の連絡・調整を図る。

##### ④ 四専門部会

###### ア 設置の意図

目標設定委員会では、生涯教育の立場に立った目標設定を進めるため、次の(ア)イの考えから四専門部会を設置した。

- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 四専門部会 | ○ 学校教育専門部会      |
|       | ○ 市民としての教育専門部会  |
|       | ○ 職業人としての教育専門部会 |
|       | ○ 家庭人としての教育専門部会 |

(ア) 人間の一生という時系列で、人生各期にわたる教育を考えると、学校教育以前の段階から家庭人としての子育ての教育があり、学校教育以後にも市民としての教育、職業人としての教育、さらに家庭人としての教育がある。

したがって、人間の一生を通して行われるべき教育の問題点は、この四つの教育の角度から検討されることにより、生涯教育の目標としてえがかれるものが明らかになってくるものとする。

年齢(歳)	0	5・6	11・12	14・15	22・23	42・43	60以上	
人生各期	乳幼児期	児童期	青年前期	青年後期	壮年前期	壮年後期	高齢期	
生涯を通して行われる教育の側面	学校教育	←————→						
	市民としての教育	←.....→			—————			
	職業人としての教育			←————→				
	家庭人としての教育	←————→						

(イ) 現代社会及び未来社会を見通したとき、足利市の教育に要請されるものがこの四つの教育の場の角度から検討することにより明らかになってくると考える。

すなわち、これらの四つの教育の場の受け持つべき責任と分担を明確にするとともに、市民の生涯教育に対するさまざまな願いや問題点を洗い出し、これらを全体的かつ構造的に位置づけることが大切である。

#### イ 四専門部会の機能

これらの四つの専門部会は、それぞれの教育の角度から、各種の質問紙調査や面接調査によって市民の生涯教育に対する意識や実態を明らかにし、それらから足利市の教育課題を抽出し、教育課題達成のための具体的な達成目標の設定、達成目標をくくった形での教育目標の設定を行う。

また、目標起草委員会において、各専門部会で設定した教育目標が整理・統合され、人生各期に位置づけられた教育目標について、各専門部会で行政自ら、あるいは市民自らの角度から具体策を策定する。

さらに、目標達成のための具体策をおし進めるために、家庭、学校、地域、職場、社会教育等のそれぞれの教育の役割を明確にし、相互のかかわりについて検討する。

### ⑤ 目標起草委員会

#### ア 設置の意図

足利市の教育目標設定は、昭和51年度から3か年にわたり、各専門部会の立場から部会の教育目標、教育課題、達成目標を検討してきた。

ここで、各専門部会で検討されてきた教育目標、教育課題、達成目標を生涯教育の立場から整理・統合し、乳幼児期から高齢期にわたる人生各期に位置づけ、ま

### Ⅲ 足利市の教育目標設定の基本構想

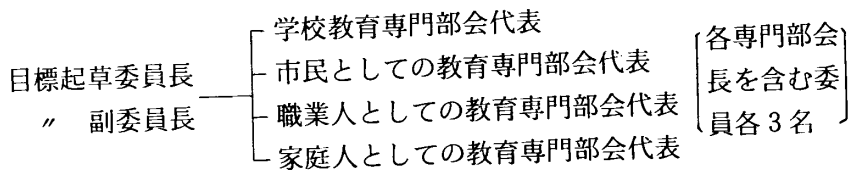
とめあげる必要がある。

また、設定された目標が、真に生きてはたらくためには、足利市の各主体者が、自らの実態に照らして、「人生各期にわたる教育目標」の中から選択し、目標設定がなされなければならない。そこで、各主体者が目標設定する際に、手続きの面や内容の面でも参考になる目標を「重点教育目標」として打ち出す必要がある。

さらに、人生各期にわたる教育目標や重点教育目標のそれぞれの目標について、広く足利市民にその設定理由や意味内容等について理解してもらうため、目標解説文及び、目標全文の起草等を作成する必要がある。以上のようなことから目標起草委員会を設置した。

#### イ 組織

各専門部会の代表15人以内をもって組織し、目標設定委員会委員長が委嘱する。



#### ウ 運営

会議は、おおよそ専門部会と同日に開催し、起草委員会の開催期間は、昭和54年4月から56年3月までとする。

#### エ 起草委員会の機能

(ア) 目標全文の起草をし、足利市教育委員会への答申文案を作成する。

(イ) 四専門部会で検討されてきた部会による教育目標、教育課題、達成目標を整理・統合し、生涯教育の立場から人生各期の教育目標として位置づけ、「人生各期にわたる教育目標」にまとめあげる。

(ウ) 人生各期にわたる教育目標の中から、足利市の各主体者が各主体者の実態をふまえ、各主体者自身の目標を設定していく上で参考となる「重点教育目標」を設定する。

(エ) 人生各期にわたる教育目標及び重点教育目標のそれぞれの目標について、その設定理由や意味内容等の解説文を作成する。

#### ⑥ 事務局

目標設定に関する基礎的な資料の収集、それぞれの会議に提案する会議資料の作成及び検討を行う。さらに会議録を作成し、今後の目標設定作業の方向や具体的な方法について検討する。